垂水
史談会報
第 72 号
2025（令和７）年
１１月発行

【報告】

垂水市・鹿大・垂高・史談会が 戦争遺跡を調査

（垂水戦跡調査第３回）

令和七年は、太平洋戦争終結から八十年目の年です。縄文時代などと比べるとたった八十年前のことですが、語れた人々が語れなくなり、その情景を想起させる痕跡が見えなくなり、集団としての記憶が薄れているのが現実です。そんな今の時代において、歴史の当事者としての「物」や「遺跡」は、ますます重要な意義を帯びてきています。

令和七年九月、垂水市に残る戦争の痕跡や記録写真などから情報を取り出し、次世代につなぎ、そして自分たちの考えを深めるために、鹿児島大学と垂水高等学校、垂水市の三者が連携して、調査とワークショップとを行い、史談会会員の数名が協力しました。実際に戦争遺跡を計測したり、写真の背景事情を記録したり、物の目録を作ったり、どこに何があるかをマッピングしたり、体験談を聞き取りしたり・・。垂水市の戦争遺跡に関する調査を進めるため、大学生・高校生・そして、関係者の方々に、たくさんのご協力をいただきました。新城にある震洋の基地跡、県内どころか九州で一番大きいかも・・。浜平の道の駅から見える魚雷航跡監視台場跡、県内ではここにしか残ってないかも・・。垂水市内には意外とたくさん、当時の遺構が残っているのかも・・。

さて、気になる調査成果は、二月の上旬に市民館で行われる予定の成果発表会にて公開されます。若者たちが垂水の歴史に興味を持ち、戦争というテーマについて一年近く考えてきた成果を、ぜひ聞きに来てください。そして垂水の歴史を守り、語り伝える団体の会員として、あるいは歴史ある地域に所縁を持つ一人として、この戦後八十年という節目の中で一度、歴史を守ることやそれを語ることについて、じっくりと考えてみてはいかがでしょうか。

（高嶺　光佑）

戦争遺跡調査の様子

◇「垂水の史跡・文化財」展②開催中！

十一月一日（土）～三十日（日）垂水市立図書館にて

★今回は、『垂水島津家墓所復旧作業の現状』、『垂水の俳人「高浜虚子に「つながる人々とその作品」」などの展示を行っています。ぜひ見に来てください。

まち歩き講座　第４回

まち歩き講座（通称 ブラセスミ）も、第５回目を迎えました。十月二十六日朝９時前。３３人のみなさんが集まりました。この日のスタートは、いつもとちょっと違いました。ちょうど９時に種子島宇宙センターから、ロケットが発射されたのです。晴れ渡った青空に、白いロケット雲（？）の線を引きながら、ロケットは空の彼方に消えていきました。ロケット発射の成功で始まった第５回のブラセスミ。幸先がいいスタートでした。

まずは、集合場所の垂水南港のすぐ近くにある切目王子神社に行きました。切目王子は、天智天皇の息子だと言われる悲劇の皇子です。「なぜ、垂水に天智天皇の息子？」と思うでしょうが、あくまでも『伝承』です。（笑）ちなみに、天智天皇の伝説の地は、全国各地にあるそうです。伝説とは関係ありませんが、切目王子神社のアコウの巨木は、見事です。

その後、柊原小の校庭を訪れ、片隅にある日清・日露戦争の砲弾と庚申搭を見学しました。日清戦争後８７００、日露戦争後は、２７１７０ものぶんどってきた砲弾を全国の神社仏閣や学校等へ配布して、戦意発揚を図っていたなんて驚きです。しかし、アジア・太平洋戦争の時期の金属供出によってほとんどが銃弾などに変えられてしまって残っていないという話にもビックリ！だから、柊原小の砲弾は、貴重な負の遺産（なんか言い方が変？）ですね。

続いて、柊原の路地をブラブラした後、柊原公民館から砂浜に出ました。そこは、６月の「おろごめ」や８月の「ぶっあがい」が行われる砂浜です。柊原は、かつて多くの地域で行われていたこの２つの行事が今も残る貴重な地域であることを、砂浜を歩きながら改めて実感しました。古い習俗を継承し続ける地域の方々に敬意を表します。（「おろごめ」と「ぶっあがい」の紹介は、これまでの史談会報に掲載していますので、見てくださいね。）

最後に、参加したみなさんと記念の一枚をパチリ！　おっ、なかなかいい写真じゃないか！　（古場　昌彦）

ブラセスミ
BURASESUMI

～　あなたの知らない垂水が見つかる。
瀬角さんとブラブラ歩いて学ぼうブラセスミ　～

<次回のまち歩き講座>

第六回　十一月二十三日（日）
午前９時　段集落近く白山登山口集合
※垂水に住む方もめったに行かない平家落人の里・段集落でのブラセスミです。平家墓、乳どんのほか、集落内をブラブラします。
午前十一時か十一時半ごろ終了予定。

★天候によっては、座学になります。悪しからず。
★史談会会員は、いつでも参加できます。（会員特典です。）

【訃報】

今年４月まで会長として垂水史談会を牽引、指導して来られた町田猛さんが１０月２４日亡くなられました。病気療養に専念されながらも、資料館建設に対する熱意は執行部に託された重要な課題でもあります。心よりお悔やみ申し上げます。

垂水のむかし話が紙芝居に！

垂水市誌や垂水市史料集（三）にも掲載されているむかし話「垂水の最も古い伝説」の紙芝居ができました。

絵は、東桜島町在住の足立昇さんにお願いしました。小さい子どもたちから楽しめるすてきな紙芝居になりました。十一月二十九日の「冬のおはなしシアター」で初公開です。くわしくは、チラシを参照してください。

＜研究ノート＞　蝶　の　話

第３回　小さな絶滅危惧種その②　シルビアシジミ

前回号に引き続き、絶滅危惧種第二段として、シルビアシジミを紹介します。

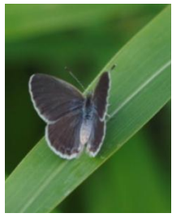
大きさは翅を閉じると一センチ前後。食草は主にミヤコグサと言うマメ科の植物です。ミヤコグサは、春から夏頃にかけて黄色いふっくらとした形の花を咲かせるので、ご存知の方も多いかと思います。しかし、人工的に植えた処にはまず生息していません。

大隅半島でもミヤコグサの群落をところどころ見受けたりはしますがこの蝶は飛翔能力が弱いので条件に合った限られた場所でひっそりと生息しています。そのため土砂の流失や土地の開発等で絶滅した地域も数多く環境省のレッドリストに挙げられました。

私たちの家の周りでよく見かける蝶でヤマトシジミがいます。シルビアシジミによく似ていますが翅裏の縁取り模様の相違や黒紋の数や大きさ、その配列の違いなどで区別ができます。

（市来　恒夫）

オ　ス

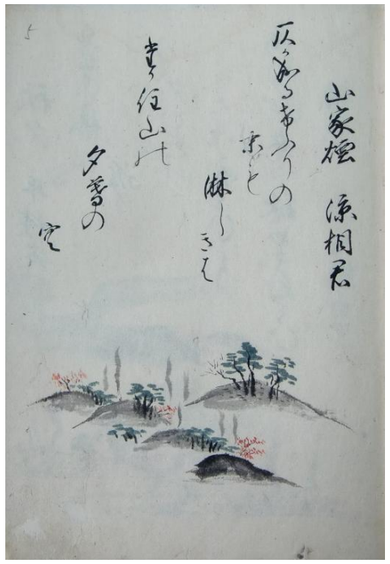

メ　ス

蝶の裏面

近似種ヤマトシジミ

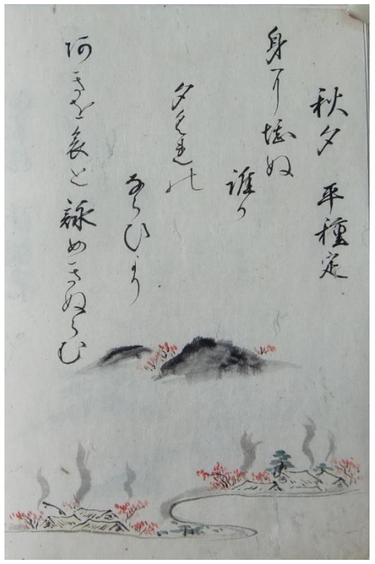
＜垂城三十六歌撰　その５＞

山家煙　涼相君



仄か成るけふりの
　末も
　　淋しきは
たか住山の
　夕暮の
　　空

秋夕　平種定



身に堪ぬ
　誰か
　　夕くれの
　　ならひより
あきを哀と詠めきぬらむ

＊詠（なが）む　↓歌を詠（よ）むこと。

（翻刻・瀬角龍平）

垂水では、はやくからすぐれた歌が数多くよまれてきました。１８３５年に編纂された「浪の藻屑」には、垂水領主から町人まで１６５人の名と２０００首の歌がしるされています。その中から、特に秀でた３６人を選んで**「垂城三十六歌撰」**と称しました。